

地域と自然を愛する心を 育む総合的な学習 サギソウ復活大作戦

兵庫県篠山市立今田小学校
さかいたつや
酒井達哉

【実践の概要】

美しく可憐なサギソウは、町花として昔から今田の人々に親しまれてきたが、開発が進むにつれ、急激にその姿が見られなくなり、今や「幻の花」とまでいわれるようになった。

本校の5学年児童は、地域のシンボルである草花で全国的にも絶滅の危機に瀕しているサギソウを素材とした総合的な学習に取り組んだ。児童たちは自生地の見学などの体験的な学習を積み重ねるうちに、この美しい草花に愛着をもつようになり、今田から「絶滅」してしまうことを心配し、サギソウを昔のように復活させたいという願いをもった。

そこで、「今田のサギソウ復活大作戦」と名づけた単元を構成し、今田からサギソウが姿を消していく過程と具体的な原因を明らかにしたうえで、サギソウを守るために小学生にできることを実践していくことをねらった問題解決的な学習に取り組んだ。

本実践の特色としては、(1)自然の中での体験を重視した学習 (2)地域での情報の収集と発信 (3)研究者や関係機関との交流があげられる。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

かけがえのない地域の自然環境の変遷をサギソウを通して調べることにより、21世紀社会の課題となる「人と自然との共生のあり方」に目を向けさせたいと考えた。

2 仮説

地域で得られた情報をベースに、研究者と

も連携して、サギソウを守るために小学生なりに取り組める方法を見だし、行動に移していく過程で、児童の環境保全への主体的な実践力を効果的に育むことができるであろう。

3 具体的な実践の経過

(1)自然のなかでの体験を重視した学習

宅地開発が迫る自生地からサギソウの株を救出する活動をしたり、地域の伝統工芸の立杭焼で自分だけの鉢をつくり、サギソウを球根から栽培するなかで、児童はサギソウへの関心を深めていった。

(2)地域での情報の収集と発信

追求すべき課題を次の4点に絞り、地域の方々に、約100人にアンケートを行った。

- ・今田の人々とサギソウとのつながりの深さ
- ・サギソウの生息場所の年代ごとの変化
- ・今田からサギソウが消えた原因
- ・サギソウを守るために私たちにできること

アンケートや取材によって得られた、今田のサギソウについての多くの情報は、テーマごとに、グループに分かれて統計的手法で整理し、サギソウを減少させた原因や、復活に向けて小学生なりに取り組める内容を明らかにしていった。

その成果発表は、市立さぎそうホールに地域の方々を招き、「今田のサギソウ復活大作戦ミレニアム」と題して行った。

(3)研究者や関係機関との交流

1年の学習を進めるなかでは、篠山市サギソウ保存会の方々や全国の植物園の研究者に助言をいただいた。また、大学教授とも連携し、サギソウの種からの「無菌播種」実験にも挑戦した。

4 研究の成果と課題

児童が意欲的に学習に臨むような手だてを示してやるのが、総合的な学習のなかの教師の役割の一つだと思う。最後まで課題意識を持って学習を進める姿があれば、その「総合的な学習」は児童の生涯を支える意味のある学びになるのではないだろうか。